



■被災地出張授業

2015年 12月10日

社会人として 「いい人生」を送るために



講師：日比谷 武 学校と経営者の交流活動推進委員会 委員長(富士ゼロックス 顧問)

IPPO IPPO NIPPON プロジェクトによる被災地出張授業を、岩手県立高田高等学校の海洋システム科の生徒を対象に行った。今回は、日比谷武学校と経営者の交流活動推進委員会委員長が、社会人として「いい人生」を送るために学ぶべきことや、その心構えについて語った。

いい情報を得るために

私は、高校時代から歴史の本を読むことが好きでした。特に司馬遼太郎の『竜馬がゆく』は高校時代に読み、20代のころ、また最近になって読み返しました。不思議なことに読んだ年齢によって受け止め方が変わります。

坂本龍馬は、自分の夢や志をかなえるために、いろいろな場所に旅をしています。当時は旅することも大変なため、その行動力は素晴らしいものです。

彼は、旅をすることで膨大な情報を得ることができました。情報は「情けに報いる」と書きます。いい情報を得ようと思ったら、いい情報を提供しなければなりま

せん。「お前と付き合うと面白い話が聞ける」と思われるような、人と人の付き合いが必要となります。グローバル化が進み、インターネットで簡単に情報が手に入る時代でも、自らの人間性で幅広い人脈を築き、そこからいい情報を得ていくことが大切なのです。

しかし、いい情報を得ることができても、その情報を正しく判断する力がなくてはなりません。そのためには、学校で基礎的な知識を学ぶだけでなく、人間として何が大切なのか「判断の軸を持つ力」を学ぶことが大切なのです。

時間と空間に学ぶ

旅は、「時間と空間」に言い換えることもできます。時間は歴史であり、空間は地理でもあります。

皆さんがこれから活躍するのは、新幹線が北海道までつながるような、空間の軸がどんどん縮まる世の中です。そして日本だけでなく、世界とつながるグローバル化の時代です。

私が高校時代を過ごした小田原市は水産業が盛んで、かまぼこの生産でも有名です。私はかまぼこ店でアルバイトをした経験がありますが、かまぼこを作る原料となる魚の稚魚は、中国近海で生まれます。しかし、今、中国の環境汚染で稚魚が十分に育たなくなり、日本の小田原

市のかまぼこ店にも影響を及ぼしているそうです。山が荒れて保水力が弱くなり、小田原の自然環境が大きく変化しているのも問題です。環境保全活動に取り組む企業は増えていますが、グローバルな空間のつながりが、いかに大きな影響を与えているのか、こうした面からも理解できます。

一方、時間軸として歴史を振り返ると、江戸時代の「もったいない」というエコ意識が、今、「もったいない」という世界語になって、大きく注目されています。

1300年前から続く伊勢神宮の式年遷宮では、20年ごとにお社を造り替える儀式があります。そこで解体した社の木材は、捨てられるのではなく、全国の神社にリユースされ、考え方や技能の伝承が、現代まで脈々と続いています。日本に古くからある「もったいない」の意識は、変わらず現代に通じているのです。このように、歴史に学べるものもたくさんあります。

信頼関係の基本は「あいさつ」

本質的なものを忘れず、新しく変化する部分も必要だとする、松尾芭蕉の「不易流行」という言葉があります。変化が激しい時代には、人も企業もその変化に対応できたものだけが生き残ります。情報を得て判断する力が必要になります。



一方で、時代を経ても変えてはならないものもあります。企業でいえば経営理念であり企業風土です。人間でいえば、人間性であり、人としての信頼性であるといえます。

私が働いている富士ゼロックスは、今でこそ規模も大きく、多くの社員が活躍していますが、ずっと順調だったわけではありません。さまざまな危機やリスクを乗り越えてきました。売上げが落ちてピンチのときでも、社員全員で頑張れば復活できます。一番大切なのは社内外の人と人との信頼であり、それを失ったら企業は立ち行かなくなるのです。これは個人も同じです。

人と人の信頼関係を築くための基本は「あいさつ」です。社会人になっても、大きな声であいさつするよう、心掛けてください。

社会人としての価値を磨く

社会人として働くということは、相手が求める価値を提供することでもあります。お客さまに対し、より大きな価値を提供するには、大勢の人と協力しなくてはなりません。さまざまな人と信頼関係を結び仕事をするためには、自分の価値を高めること、すなわち人間性が大切になります。人間性を磨くために、歴史や郷土の先人たちに大いに学んでください。

岩手県は、全国で2番目に多く総理大臣を輩出しています。医師であり政治家の後藤新平さん、言語・民俗学者の金田



一京助さんなど素晴らしい偉人もいて、文化遺産も多く、このような中から学ぶべきことはたくさんあるはずですよ。

一番大切なことは、皆さんが夢と希望を持ちながら、自ら考え行動する人になることです。困難も多いでしょうが、大きな夢と高い志を持ち続けてください。

生徒の感想

●岩手県の歴史について学ぶことは、人間性を育てる意味で大切なことだと知りました。自分が社会に出たときに、とても役立つお話でした。自分を信じて頑張ってみようと思います。

●私は将来、病児保育の仕事をしたと思っています。病児保育では、人とかかわりがとても大切だと思うので、教えてもらったことを忘れずに、人とよい関係をつくれるようにしたいです。そのためにも、自ら考えて行動しなくてはいけないと思いました。

●社会に出て一番大事なのは、やはり人間なのだと感じました。人との信頼を大切に、あいさつを通じてコミュニケーションをとることの大切さをあらためて実感しました。また、学び続けることも大事だと分かりました。高校で学ぶことと、社会に出て学ぶことは全然違いますが、これからもたくさん学んでいきたいです。

●今日初めて「不易流行」という言葉を知りました。今、変えなければいけないこと、変えてもよいことは何かを考え、実行していこうと思いました。私には判断力が足りません。判断の軸を持つことがとても大切だということが分かりました。私も人のために何か全力で尽くすことができるような人生にしたいです。

●今回のお話を聞いて、私たちが生活していくためには、情報が大切だということあらためて学びました。私たちのような若い世代は、スマートフォンやパソコンのおかげで、ネットから情報を集めることができます。しかし、坂本龍馬のように自分で情報を集めることが大切なのだと思います。ネットの情報には間違った情報やうわさもあります。数ある情報の中から、正しい情報を集める力、集めた情報を生きていく中での判断材料として利用していくことが重要なのだと理解できました。自分が得た情報を、自分の満足だけでなく、世のため人のために活用できるよう、今自分ができることをしっかりと行いたいです。

●海上保安官になるのが夢です。困っている人を助け、皆の役に立ちたいのです。しかし、僕はつらいときに逃げてしまう部分があります。部活などで気持ちが負けてしまうときがあるのです。これは、海上保安官としてマイナスなので、これからの学校生活や部活動を通じて「人間性」を高め、最後まで諦めないで夢に向かって頑張りたいと思います。

●今日の話で一番大切だと思ったのは、自分が満足するのは大切だが、他の人の満足を考えることも大切だということです。私は料理人になりたいと思っています。他の人に料理を食べてもらって満足してもらおうという、価値の提供が大切だと理解できました。将来に役立てていきたいです。